



豊科郷土博物館
館長 百瀬新治さん

【名水紹介】

安曇野の宝 めぐる水

清冽な湧水ともう一つの名水
「用水」を守り、次代へと伝える

豊科郷土博物館館長の百瀬新治さんは、かつては名水の地とはほど遠く、乏しい水に苦勞し続けた安曇野の人々の暮らしや、現在の名水と美しい田園風景とが成り立つまでの人々の努力と知恵などを紹介しました。同館では、現在、安曇野の水をめぐる歴史や文化などを常設展示しています。

百瀬さんは、安曇野の名水の特徴として『安曇野わさび田湧水

群』を代表とする北アルプスからの清冽な湧水だけでなく、水田を潤す『用水の水・田の水』も名水である」と説明します。

最近の発掘調査結果から、今から千年以上前の古代平安時代までは、扇状地である安曇野は、沢水や湧水を利用できる条件の良い場所以外に農地や集落は少ない場所でした。中世以降も安曇野の西側半分は畑作地帯であり、平地でも林が残るとい水が乏しい状態が明治時代以降も続いたそうです。

そうした安曇野の水環境を変えたのが、生活用水や田の水を川から導く『用水堰』であり、鎌倉時代から現代まで長い時間をかけ、地域の人々が力を合わせた「汗と知恵の結晶」として拾ヶ堰を始めとした数々の堰が造られました。完成した堰と堰は相互に連結し、上の田で使われた温かい水が次の田に活用される「血管」のような循環システムができあがり、現在



拾ヶ堰

の安曇野の穀倉地帯を支えていると説明しました。

百瀬さんは、北アルプスなどを恵みとする水は「用水に形を変えた『名水』として、今日も安曇野の田に満々と湛えられている」と話します。

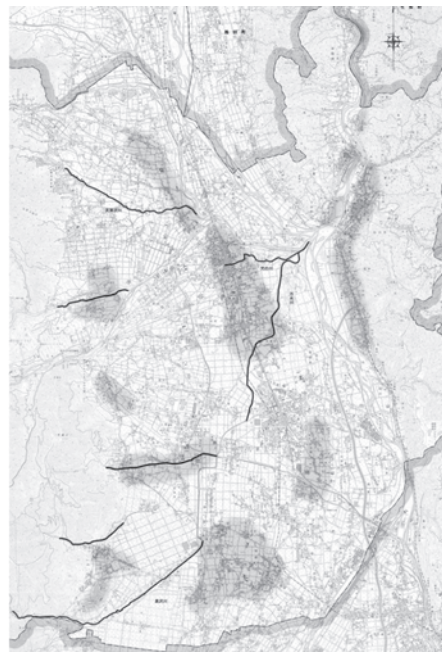
また、市内のいくつかの小学校では、堰を通して安曇野の自然や歴史

耕作地の変化の様子

現代



平安時代前期（約 1,150 年前）



塗り部分が耕作地、実線部分が自然河川または主な堰・用水。堰・用水の開削により耕作地が拡大したことが分かります。

史を学び、自分たちで堰を守り継ぐ活動事例も紹介され、「こうした子どもたちの姿が安曇野の生命線となる堰を名水として末永く存続させる『安曇野の宝』になる」と話し、水の保全と共に堰の大切さを、未来を担う子どもたちに伝えていくことの必要性を話しました。

【事例発表】

安曇野の水環境を学ぶ

きれいな安曇野の水を守るためには

豊科北中学校科学部（部員18人）では、市内5カ所で行った湧水や堰などの水質調査の結果を発表しました。

同部は、毎年、千曲川河川事務所の協力のもと、水生生物調査をしているほか、テーマを決め、各種調査を行っています。本年は旧



水質調査の様子

豊科町で平成7年に名水シンポジウムが行われた際、豊科北と豊科南の両中学校が合同で行った水質調査から、調査地点にきれいな川と汚れた河川に住む生物が両方生息していたことを知り、「安曇野の河川はきれいなのか？」という疑問を持ち調査しました。

調査は、伏流水をくみ上げている「ビレッジ安曇野」、安曇野を代表する河川「犀川」と「烏川」、安曇野の農業を支える堰のうち「矢原堰」と「拾ヶ堰」計5カ所がきれいかどうか調べました。

水中の有機物量や酸素量、窒素化合物の量などを調査した結果から、数値的な汚れは見られたものの市内の河川や湧き水は、全国的に見てもとてもきれいなことが分かりました。また、一方で堰は、集落など人の生活環境に近い場所を流れるため、生活排水の流入などにより、河川よりも汚染傾向にあることも分かりました。



豊科北中学校科学部の皆さん

科学部の皆さんは、課題として生活排水を減らすこと、堰に有機物を分解する生物を増やすにはどうすればよいか話し合いました。

対策として「浄化槽を使い堰に流入する生活排水を浄化すること」、「堰の底に石を敷き生物の住みやすい環境を作ること」が必要であると提案します。

最後に部長の細萱柊太くん（3年）は「安曇野の河川はとてもきれいな水だと分かったので住んでいる自分たちも誇らしい」と話します。そして「地元の誇れる安曇野の水がいつまでもきれいな状態であるようにしていきたい。取り組みを全国や世界にも広げていきたい」と会場に呼び掛けました。

市制施行10周年、名水百選

制定30周年の節目に、全国水環境保全市町村連絡協議会との共同開催による「名水サミット in 安曇野」を開催し、多くの皆さまに水の大切さや尊さを再認識していただくとともに、安曇野の豊かな自然と美しい景観、昭和の名水百選に選ばれた「安曇野わさび田湧水群」を全国に発信することができました。参加いただいた皆さま、開催に協力いただいた多くの皆さまに感謝申し上げます。

また、10月には市制施行10周年を記念し、市民の皆さまとともに、さらなる市の発展と一体感を醸成するため、4日には穂高会館で記念式典を、10日には市役所周辺で市民まつりを開催します。多くの市民の皆さまの来場をお待ちしています。

市制施行10周年を礎に、今後も豊富な地下水などの地域資源を生かした活力あるまちづくりを進めてまいります。

市長 宮澤宗弘